

# opack オーパック めーる

Organization for Promotion Academic City by Kyushu University



<http://www.opack.jp/>

## 世界最先端・最高性能の 「次世代スーパーコンピュータセンター」を九大学研都市に! ～産学官の連携で誘致活動

九大学研都市の魅力は「研究・従業・居住の最適環境」と「九州大学と連携したCOE(世界最高水準研究教育拠点)形成と産業利用」そして「産・学・官の積極的な支援体制」です。この九大学研都市の魅力を最大限に活かし、当機構では、九州大学、九州経済連合会、福岡県、福岡市と一緒に国家プロジェクトである「次世代スーパーコンピュータ(以下「次世代スパコン」)」を核とした先端計算科学技術センター(仮称)の誘致を目指しています。

1980年代にいわゆるスーパーコンピュータが出現して以来、その利用分野は性能の向上とともに土木、自動車、航空・宇宙などから、防災・地球環境、情報通信、ナノテクノロジー・分子材料、ライフサイエンスまで拡大してきました。計算機を用いたシミュレーションは、計算科学技術と呼ばれ、「理論」「実験・観測」と並ぶ「第3の方法」として、最先端の研究や技術開発分野での重要性はますます増大することが期待されています。

国の第3次科学技術基本計画の中でも、次世代スパコンが「国家基幹技術」として位置づけられ、文部科学省では平成22年度末の稼働を目指して、理化学研究所を開発主体に総事業費約1,150億円の開発プロジェクトをスタートさせました。

開発する次世代スパコンの演算速度は世界最速の1秒間に1京回(1億の1億倍)で、基礎研究から産業までの広汎な分野での利用と、スパコンを

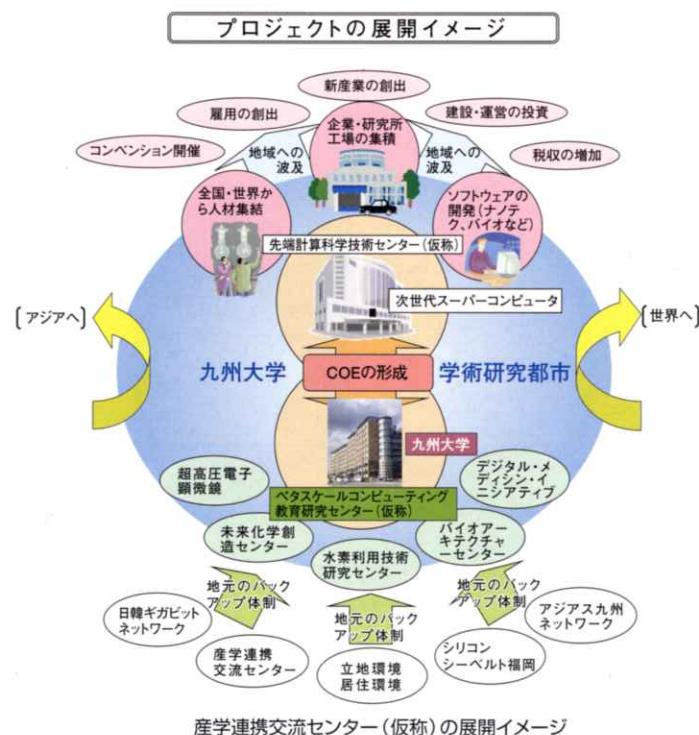
中核とする世界水準の研究開発と人材育成を行う研究教育拠点の形成を掲げています。



先端計算科学技術センター(仮称)立地候補地

立地場所は国内15箇所程の候補地の中から選考作業が進められており本年度内には選定されます。この

次世代スパコンが九大学研都市に立地すれば、建設や運営に係る地域への投資効果はもとより、九大学研都市の形成にとっては、計算科学の世界的拠点形成による国際的なイメージアップ、世界水準の研究者の集積などにつながるほか、スパコン関連企業の進出、多様な分野における関係研究機関の立地促進と新産業の創出、地場企業の科学技術力の高度化や研究者の就業機会の拡大なども見込まれます。また青少年の科学体験など様々な活用への期待も広がります。



## 進む九大伊都新キャンパスの整備 ～工学系第2陣が移転

平成11年度の造成地着工から着実な整備が進んでいる九州大学伊都新キャンパスについての現状を、九州大学新キャンパス計画推進室副室長・助教授の坂井猛先生から説明していただきました。以下は、坂井先生のご説明です。

九州大学は、「時代の変化に応じて自律的に変革し、活力を維持し続ける開かれた大学の構築」、「それに相応しい研究・教育拠点の創造」をコンセプトに、新キャンパス(伊都キャンパス)を建設し、順次移転を実施しています。

### 進む工学系の移転「ウエスト2号館」

2005(平成17)年には工学系の機械航空系と物質科学系が第1陣として、引き続き2006(平成18)年後期には、工学系の地球環境工学系とシステム情報科学系が第2陣として移転し、4,300人の学生と教職員がキャンパスライフを送ることになりました。第2陣が入居するウエスト2号館(地上11階、地下1階、延べ面積約54,400平方メートル)は、国立大最初の「PFI事業」(民間の資金・経営能力などを活用する事業)のひとつとして、平成18年6月に竣工したものです。これにより、工学系施設群の全容が姿を現しました。

**キャンパスライフをサポートする「ビッグどら」**  
2006(平成18)年4月、学生や教職員のキャン

パスライフをより豊かにするための支援施設がオープンしました。伊都キャンパスでの生活の中心施設として新しくオープンしたこの施設には、これまでウエスト4号館内で暫定的に営業されてきた食堂やコンビニに加え、新しく書店も入居しています。3層吹き抜けのホールにより自然採光や自然通風を採り入れ、屋上緑化を採用するなど、環境に配慮しています。「ビッグどら」は、128件の応募のなかから、建物の特徴をとらえ、親しみやすく呼びやすい愛称として選定されたものです。



福利厚生施設「ビッグどら」



### 「ドミトリー(DORMITORY)」への 入居開始

九州大学の地域と一体となったまちづくり「タウン・オン・キャンパス」の取

り組みのひとつとして、学生宿舎1棟(鉄筋コンクリート造10階建、254室)が完成し、2006(平成18)年9月下旬から入居を開始しています。日本人学生と留学生の混住で、男子学生・女子学生はフロアを分けています。愛称「ドミトリー(DORMITORY)」は、126件の応募のなかから、外国人にもわかり易く、アルファベットの語中にITO(伊都)を含んだロゴとしても面白みのある愛称として選定されたものです。

### まちづくりへの期待

九州大学学術研究都市構想にもとづく周辺のまちづくりも、少しずつ姿を現しています。学園通り線、河川整備をはじめとする様々なインフラ整備、キャンパス周辺での学生のすまいづくりなどが、自治体や民間事業者の手で着々と進められています。NPOやボランティアによるキャンパスの環境創造活動や、移転した工学系学生・教職員と地元住民との交流も始まっています。九州大学は、工学系に続き、理学、文系、農学の順に、2019(平成31)年までに移転する予定です。さらに、六本松地区(全学教育、比較社会文化、言語文化他)の伊都キャンパスへの直接移転、2009(平成21)年4月の授業開始について関係省庁と協議中です。移転にあわせたまちづくりへの期待がふくらみます。

伊都キャンパスと九州大学学術研究都市の実現に向けて、関係各位のご協力を引き続きお願いいたします。



## 活動報告

### 超高压電子顕微鏡フォーラム会員研修 実施中

当機構が入会の窓口となっている「超高压電子顕微鏡フォーラム」では、会員企業様(Bコース、Cコース)に対し、研修コースとして、入門コース、初級コース、中級コースをご用意しています。研修の実施は、九州大学超高压電子顕微鏡室にお願いしています。

入門・初級コースでは、SEM(Scanning Electron Microscope: 走査型電子顕微鏡)、TEM(Transmission Electron Microscope: 透過型電子顕微鏡)の役割の理解・習得から操作、SEM法、TEM法での課題解決につい

て方針を立てることができる能力を習得すること、中級コースでは、有効な操作・データの取得方法を習得し、データの解釈、研究課題にTEM法を有効に適用できる能力の修得することを目指しています。本フォーラムの研究開発へのご活用を是非ご検討下さい。



1300kV Ωフィルタ電子  
顕微鏡 JEM-1300NEF

協議会メンバーで国への要望活動を実施  
九州大学学術研究都市推進協議会を代表して、九州経済連合会、福岡県、

福岡市、並びに当機構は、7月19日(水)に、昨年に引き続き、九州大学学術研究都市構想の推進について要望するため、文部科学省、国土交通省、経済産業省の関係各課・室長(15課・室)を訪問しました。

#### 【要望事項】

1. 九州大学統合移転の早期完了について
2. 産学連携の推進について
3. 九州大学学術研究都市構想に関するインフラの整備推進について

### 270社を企業訪問

九大学研都市への産業、研究施設の集積を目指し、フェイスtoフェイスによる情報提供として、当機構では、企業訪問を行っています。企業訪問の際には、

- ①九大伊都新キャンパスの現状
- ②九州大学の研究シーズ

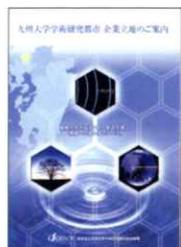
③九州大学の設備(電子顕微鏡)の開放  
④企業進出予定地の開発状況などの情報をご紹介しています。

平成18年7月現在で、訪問企業数は、メーカー・素材・エネルギー関係を中心に、230社を超え、繰り返しあがいしている企業を含めると、延べ270社に達しました。

#### 新・学研都市構想パンフレット、企業立地案内パンフレットを発行

この度、九州大学学術研究都市構想を、わかりやすくご紹介するパンフレット「九州大学学術研究都市構想」を発行しました。更に、九州大学学術研究都市へ立地することの魅力・メリットをお伝えする企業立地案内パンフレット「九州大学学術研究都市企業立地のご案内」を発行しました。

企業立地案内パンフレットでは、企業誘致マップ、土地開発事業等の立地条件を紹介する個別シートも添付しています。



#### 「技術競争力白書」の紹介 (8月21日発売)

本書は、九州大学知的財産本部と波多野徹氏(客員教授)によるメーカー

復活への提言書です。当機構職員の渡邊リサーチャー(九州大学新キャンパス計画推進室助手)も執筆を担当しました。

「ここ10年でとくに発展してきた国と産業の力を緻密に分析、さらに近未来的の予想をしています。今後ますます厳しくなっていくといわれる国際間の技術競争力。その熾烈な争いに勝つために、製造業の経営者や技術開発責任者はいま何をすべきか。それを明確に示した幹部必読の画期的な経営指南書。」となっています。(紹介文より抜粋)



#### ホームページ情報

#### 「研究シーズシートデータベース」を公開

現在、研究者の研究内容をシーズシートにまとめ、企業訪問等で活用しています。この度、より多くの方々に研究シーズを知るために、「九州大学研究シーズシートデータベース」として公開致しました。当機構ホームページからご覧下さい。

<http://quric.com/opack/>

#### 英語版ホームページを公開

九州大学学術研究都市構想の理念であるアジアの「知の拠点」形成の一環として、外国人の方々への九大学研究都市のアピール窓口として、英語版ホームページを公開致しました。

[http://www.opack.jp/index\\_en.html](http://www.opack.jp/index_en.html)



#### 行事予定

##### シンポジウムのご案内

・「将来のスーパーコンピュータとシミュレーション科学シンポジウム」

10月27日(金)、ホテルオークラ博多で開催予定です。

・「知の創造空間Fukuoka～アジア・世界をリードする次世代ケミストリー(仮称)」

10月29日(日)13:30～15:30、福岡SRPセンタービル(百道浜)で開催予定です。

参加募集等、詳細はホームページに掲載します。

##### 「福岡水素エネルギー社会

##### 近未来展2006」に出演予定

昨年に引き続き11月20日(月)から23日(木・祝)にかけて、北九州市小倉北区・西日本総合展示場新館で「福岡水素エネルギー社会近未来展2006」が開催されます。当機構からもブースを出展します。[開催事務局の案内ホームページ](http://www.he-t.jp/)  
<http://www.he-t.jp/>

## 大学を核とする学術研究都市づくり～ルーベン・カトリック大学(UCL)～

今回はベルギーのルーベン・カトリック大学を取り上げます。この大学は、1425年設立ですが、国内の言語論争(ベルギーの公用語のひとつであるオランダ語(フラマン語)とフランス語の双方の言語を中心とする一連の経済的、文化的、民族的な対立。)で、1968年に現ルーベン・ラ・ヌーブ市にフランス語圏の大学として分離移転しました。理工系、医学系、社会人文系の10学部50学科からなり、学生数約2万人、講義主体の教員約1,400人、講義と研究を担う研究者約1,800人及び、職員2,000人で構成されています。また、移転に合わせ大学が主体となって、計画的に作られたヒューマンスケールに基づく文化都市(都市区域900ha)を形成しています。研究内容は、医学、農学、法律学の連携など多分野にわたる研究活動を推進し、細胞学、材料工学、ナノテクノロジー、実践経済学、ゲノム研究等の分野を外部専門家の評価により資金投入し、強化しています。企業との研究契約は、年間1,000件にのぼります。

大学周辺には、1972年からAINSHUTAIN(米国を主に40%が外国企業)、フレミング、モネ、アテナの4つのサイエンスパーク(150ha)が立地しています。現在、企業115社が立地し、このうちの3分の1が薬品会社で、その他にIT、化学企業が進出しています。

このサイエンスパークでは、長期賃貸契約として土地を貸し出し、建物建設費の2%をモニュメント建設、敷地の2割を緑地保全、諸建築制限のための費用に当てるなど、パーク全体の景観に配慮しています。また、リエゾン機能を果たす情報通信、化学、ポリマー、マルチメディアなど分野ごとのテクノロジー・サービスセンターが設置されています。



モネ・リサーチパーク

# 自治体からの報告

## Report from municipality

### 「泊カツラギ地区」における学生住宅のご紹介

前原市は、九州大学に隣接した「泊カツラギ地区」において、地区計画を策定し、大学の門前町としてのまちづくりを推進しています。この度、そのまちづくりの第一弾として、民間事業者が、平成19年3月のオーブンを目指し学生住宅の整備を進めています。

この学生住宅は、「九州大家族CLUB」という名称で、通常のワンルームや寮と異なり、九州大学の学生が、ワークショップを開催し、実際に利用する学生の声が企画・立案に反映されています。一例を挙げますと、学部や学生の枠を超えた学生同士の交流を図りたいという声を取り入れ、コミュニティを自然に育むことができるラウンジ等のコミュニケーション施設を充実させた設計となっています。また、朝夕の食事付きで本格的なシェフが栄養バランスのとれた食事を提供し、食生活が乱れがちな学生生活をしっかりとサポートするサービスも設けられています。ここで生活する学生等は、大家族で生活しているような暖かい居住空間を享受することが期待されます。

日々の家賃は、朝、夕の食事付で学生にとって利用



前原市

完成予想図

しやすいような価格設定がなされています。各室にはインターネット回線、エアコン等を完備し、入居とともに、特に不自由を感じる事無く生活を始めることができるよう配慮されています。更に、隣接するスポーツ施設を特別価格で利用できる特典も用意されています。また、試食＆説明会を、10/18、10/28、11/15に開催予定です。詳細につきましては、下記事務局までお問い合わせください。

前原市は、この学生住宅が前原北部におけるまちづくりの起爆剤となり、九州大学の門前町が早期に熟成するよう、地域と大学が一体となったまちづくりをこれからも推進していきます。また、地区内では他に学生アパート、生活利便施設などが建設可能である適地も用意しています。

問い合わせ先:九州大家族CLUB事務局  
 福岡県直方市知古1-6-9 サンライズビル1F  
 TEL:0949-22-1411(10:00~15:00)  
 HP:[http://www.geocities.jp/daijazoku\\_club/top.html](http://www.geocities.jp/daijazoku_club/top.html)  
 九州大学のHPからもリンクできます。(「伊都キャンパス情報」)

### シリーズ 糸島の自然と歴史・文化

#### 第6回 可也山と 遣新羅使

伊都キャンパスを訪れる方は、必ずと言っていいほど可也山の秀麗な山容を眺められると 思います。糸島富士と呼ばれ、標高が365mなので一年山とも言われています。山頂部は玄武岩ですが、それから下は花崗岩からなっています。この山の花崗岩は良質で、記録によれば福岡藩は多くの石材を切り出しています。有名な史実としては、日光東照宮の日本一大鳥居です。初代藩主の長政公は神君家康を祀る靈廟に奉納するために、延々二千数百kmもかけて運んでいます。その後も黒田家は、沢山の石鳥居を次々と寄進し、鳥居の黒田といわれる程になっています。石切り場跡には、石の切出しに使ったノミの痕が大小、形状を異にして刻まれており、江戸初期から近年に至る迄の技術の変遷がわかります。古い石切り場が殆ど消失した今日では、ここは学術的にも大変貴重な隠れた歴史遺産です。



志摩町の万葉公園から望む糸島富士（可也山）

さて、遣唐使については良く知られていますが、その表舞台の裏では朝鮮半島の新羅国へも約80年間にわたって、21回の使節団が派遣されています。先進の文物を学び、持ち帰るために困難な船旅をし、外交にも苦労した遣新羅使に感銘を覚えます。志摩町の引津湾には昔、風待ちをした引津（ひきつ）の亭（とりま）があり、万葉集には、ここで可也山を見ながら詠んだ歌も出てきます。湾を望む船越の岬の万葉歌碑には「草枕旅

を苦しみ恋ひ居れば可也の山辺にさ雄鹿鳴くも」と詠われており、不安な航海や妻恋の想いがひしひしと伝わってきます。書は故福田赳夫元総理ですが、感懷深いものが偲ばれます。目の前の引津湾と可也山を眺めていると、当時のままの万葉のロマンが甦ってくるようです。



故福田赳夫元総理の  
書による万葉歌碑